



国際ロータリー第2680地区  
Rotary  
加古川ロータリークラブ



2019-20年度 RI会長; マーク・ダニエル・マローニー / 地区ガバナー 浅木 幸雄  
加古川ロータリークラブ会長; 枝川 潤一 / 幹事; 大辻 利紀  
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口800番地 加古川商工会議所会館5F  
TEL 079-423-0661 FAX 079-423-0677 e-Mail kakogawa@rotaryclub.ne.jp

令和元年10月29日(火) 雨 No. 15



▲会長挨拶



▲高田会員の卓話

## 会長の時間

会長 枝川 潤一

### <ロマネ・コンティとDRC>

まず、ロータリー財団から 2018～19 年度の支援に対して2つのクラブバナーの表彰が届いていますのでご紹介致します。

さて本日は、世界一高いロマネ・コンティとその生産者DRCについて話したいと思います。本題に入る前に、ワインは日常ワイン、中級～高級ワイン、最高級ワインの3～4グループに分類され、芸術品と云ってもよい最高級ワインがこの世に存在すること、および最高級ワインと日常ワインとでは楽しみ方やアプローチの仕方が全く違うことをまず押さえておきたいと思います。

ロマネ・コンティの畑は、10世紀からサン・ヴィヴァン修道院が所有していました。後にコンティ公がルイ15世の愛妾ポンパドゥール夫人との争奪戦の末に 1760 年に獲得し、個人的に囲い込んで量よりも最高の品質を求めたことは有名なエピソードです。これを弁証法的に‘キリスト教とブルボン王家という聖俗2つの権威が出会って止揚した場所であり、それは偶然ではない’との専門誌の紹介記事もありました。また、この畑のブドウ樹は1945年の収穫まで接ぎ木をしないままフィロキセラの虫害に対処して持ちこたえ、その後の改植に伴い 1946年～51年のロマネ・コンティのワインは存在しないことも知っておきたいところです。

「ロマネ」と呼ばれるようになった理由は定かではなく、DRCによれば‘この土地がローマ帝国に関係する証拠は発掘されていない’そうです。名前の由来についてはネット上で間違った説明を見かけますのでご注意ください。ロマネ・コンティは現在DRCの単独所有で、畑面積は1,8haと小さく、ビオディナミ農法が実践され収量は低く、生産量は年間4～

6千本にすぎません。もう一つ、畑にある十字架は人気の記念写真スポットとなっています。

そのワインは「完璧な球体」と評され、究極のバランスの良さやエレガンスが別格で王者の風格がにじみ出ており、非常に長命で20年～50年は熟成可能と云われています。ロマネ・コンティに関しては、ワインの特徴や近隣の特級ワインとの比較検討よりも、歴史に根づいた偉大な文化的シンボルとして捉える観点の方が大切かもしれません。

次にDRCですが、Domaine de la Romanee-Conti ドメーヌ・ド・ラ・ロマネ・コンティという会社組織の生産業者名の略称です。

DRCはロマネ・コンティとラ・ターシュを単独所有しているだけでなく、リシュブール、ロマネ・サン・ヴィヴァン、グラン・エシェゾーというキラ星のごときヴォーヌ・ロマネ村の特級畑の各々の最大所有者であり、白の最高峰モンラッシェの畑も所有し、かつ、一切妥協しないブドウ栽培と伝統的な醸造法を基盤にして常にノブリス・オブリージェ(高い身分に伴う道義上の責務)を全うし、豪華絢爛な孤高のワインを造り続けているザ・ドメーヌとして敬意を集めているところです。

2010年に邦訳されたジャッキー・リゴー氏の著書「テロワールとワインの造り手たち」の中に、DRCの共同経営者オベール・ド・ヴィレーヌ氏のエッセイが収載されていますので、以下にその一部を紹介致します。『私たちの哲学において、最も重要なことはワイン造りにかかわるもの全員が、どのような作業であれ、常に優れた品質をとことん追求すること、そしてそこにある暗黙の制約をしっかりと守るということだ。それこそが、ワイン造りの職人としての誇りだと思う。今世紀の私たちの課題は、ワイン造りと人間らしさの親密な関係を、もう一度、学びなおすことではないだろうか。～中略～私たちに必要なことは、制約、選抜、熟練、細やかな配慮、ていねいさ、忍耐、一そしておそらく最も重要な一謙虚さ、といったキーワードにもとづく規則に、わずかな妥協をも許さず、徹底的に執着することだ。こうした厳格さがなければ、ブルゴーニュで偉業をなし得ることは出来ない。』

こうした哲学や信念を貫く人々と不滅のテロワールの掛け合わせによって造られるロマネ・コンティについては、たとえ飲むことは叶わなくても、大いに語る価値はあると思っています。なお、ロマネ・コンティでは多くの偽造品が市場に出回っているので十分にご留意下さい。

最後に、本日は高田会員の卓話です。高田会員には台湾との共同事業の書類の件や米山記念奨学生チャンさんの随伴の件で大変お世話になりました。本日の卓話も宜しくお願い致します。

## 幹事報告

- 1) 本日例会終了後、4階オーバルルームに於いて第2回 定款・細則委員会を開催します。

## ニコニコ



- 省 略 ☺ 高田会員、チャンさんの卓話の付き添いとして和田山までご苦勞様でした。
- 省 略 ☺ 高田会員、本日の卓話楽しみにしています。

省 略 ☺ 高田会員へ、チャンさんの卓話の付き添い和田山までご苦労様  
 でした。  
 省 略 ☺ 高田会員、本日の卓話楽しみにしています。  
 省 略 ☺ 志賀会員へ、高砂ロータリークラブでの卓話ごくろう様でした。  
 省 略 ☺ 高田勝典会員、卓話よろしくお願ひします。楽しみにしていま  
 す。  
 省 略 ☺ 高田会員の卓話に期待いたします。  
 省 略 ☺ 大辻関、夢に向かって頑張り！  
 省 略 ☺ 高田会員、卓話楽しみです。  
 省 略 ☺ 大辻さん、番付表ありがとうございます。  
 省 略 ☺ 高田さん、卓話たのしみです。  
 省 略 ☺ 高田さん、卓話楽しみにしております。  
 省 略 ☺ 姫路南ロータリークラブ桑田様をお迎えした喜び。  
 省 略 ☺ 高田会員、本日の卓話楽しみです。  
 省 略 ☺ 高田会員、本日の卓話楽しみです。  
 省 略 ☺ 本日、卓話をさせていただきます。よろしくお願ひします。  
 省 略 ☺ 高田会員、卓話楽しみにしています。  
 省 略 ☺ 高田会員、卓話楽しみにしています。  
 省 略 ☺ 高田さん、卓話楽しみにしております。勉強させていただきま  
 す。  
 省 略 ☺ テーブルの花いただきます。

以上20件 ¥36,000-  
 本年度累計 ¥711,000-

### 出席委員会

☆ 今 週 会員数 77 名 出席 44 名 出席免除 16 名 欠席 17 名  
 ☆ 欠 席 者 省略

☆ 前 々 週 会員数 77 名 出席 58 名 出席免除 11 名 欠席 8 名  
 ☆ ビ ジ タ ー 姫路南 RC 桑田 祥夫氏  
 ☆ メークアップ 和田山RC 10/17 高田  
 高砂RC 10/18 志賀  
 加古川中央 RC 10/24 水川、落合、大山、芝本、高浜

### 親睦活動委員会

例会場当番

11月 5日(火) 太田、畑  
 11月 9日(土) 志賀、今村



プログラム委員会

本日10月29日(火)	11月5日(火)	11月12日(火)	11月19日(火)
卓話 「易経」 龍の話 高田 担当	職場例会 「天然温泉花乃井の湯 スーパーホテル 加古川駅前」 スーパーホテル加古川駅前 支配人 五十嵐 礼雄様 職業奉仕委員会 担当	例会変更 親睦旅行 11月9日～10日 (土日) 於;熱海・箱根方面 親睦活動委員会 担当	フォーラム 「ロータリー財団の現 状とそのはたらき」 地区 ロータリー財団委員会 資金推進小委員会 委員 松嶋 洋子氏 ロータリー財団委員会 担当

11月のおよろこび

- ◆ 誕生日祝 省略
- ◆ 結婚記念日祝
- ◆ 出席表彰
- ◆ 会社創立記念日

(補足) 枝川会長より <ブルゴーニュとビオダイナミ農法>

ビオダイナミ等について補足致します。戦後の一時期ブルゴーニュでは化学肥料、除草剤、害虫駆除剤を使った化学農法が広まったが、次第にブドウ果の品質低下を招いて良いワインを造るのが難しくなっていました。それに気づいた生産者たちの間に、1960年代からの化学農法は誤りでブドウ樹を痛めワインを魅力ないものにした、農薬を使うのを止めて土壌を活性化しよう、丁寧な農作業なくして偉大なテロワール・ワインは生まれない等々の反省が広まり、1980年代には自然農法への回帰が始まりました。今日では品質意識や環境保護意識が高く自然農法に取り組む生産者は世界中で着実に増えています。

自然農法は次の3つに大別され、ビオダイナミ農法が最も厳格です。哲学者のルドルフ・シュタイナー博士によって創始された「ビオダイナミ農法」は農作業全体を一つの生命体とみて、①農薬や化学肥料は使わず、宇宙の力や大地の力を活性化する調剤を用いる、②食物連鎖を重んじてブドウ畑の調和と潜在能力を引き出すように努める、③太陰暦と占星術から編纂された農業暦を用いてリズムをもって仕事をするを柱とした方法です。科学的に説明出来ないところも多々あり、ビオダイナミ・ワインが無条件に良い訳ではないものの、高名な一流生産者がこれを20年以上も継続実践して、より上質なワインを造り出していることに議論の余地はありません。

「ビオロジック農法」は工業的に生産された農薬等がブドウ果実や畑に残留することを避けるために、それらを使わずにブドウを栽培する方法を指し、遺伝子組み換え技術も当然避けています。「リュット・レゾネ」は思慮深く化学薬品の使用を控えるが必要時には何物も排除しない実践的な方法を指し、ビオロジック農法に近く、持続可能性に優れているようです。